

## 岡崎市史料叢書編集出版検討会会議録

### 1 開催日時・場所

令和7年3月10日（月） 14時から15時30分  
岡崎市美術博物館会議室

### 2 出席者（敬称略）

神谷 智 （愛知大学教授）  
神田 竜也 （元愛知教育大学講師）  
加藤 重孝 （岡崎地方史研究会幹事）  
鈴木 テル子 （岡崎古文書研究会幹事）  
安藤 幸子 （岡崎古文書研究会）

### 3 説明のため出席した事務局職員の職氏名

美術博物館館長	大澤 一実
主査	湯谷 翔悟
主事	山下 葵
主事	安本 翔音

## 4 会議録

### 1 報告

#### (1) 史料叢書売上数（令和6年4月～同7年2月）

販売場所：美術博物館・文化振興課・家康館・瀧山寺・大樹寺

『岡崎町方文書』 2冊（前年比－5）

『瀧山寺文書』 上：5冊（＋1） 下：1冊（－3）

『大樹寺文書』 上：1冊（－9） 下：0冊（－8）

『長嶋家御用日記』 0冊（－1）

『中根家文書』 上：1冊（－2） 下：0冊（－3）

→前年は大河ドラマ及び展覧会の影響で売れ行き好調

### 2 議題

#### (1) 『本多家文書』の刊行

##### ① 刊行スケジュール（年度ごと、予定）

令和6年	原稿データ化（～7年6月）
	レイアウト指示入れ開始
令和7年	レイアウト指示入れ
令和8年 5月	発注（業者決定）
	入稿
	校正（古文書研究会に依頼）
令和9年 1月末	校了
3月	刊行

② 掲載史料及び進捗について

事務局) 現状では、全 1200 頁ほどで頁数が多い。取りうる策は以下 2 点。

①一部史料は省くか家臣文書に送り、1 冊として刊行できる頁数にする

②上下巻に分けることによって全てを収録する。

A 氏) ①にするにしても半分は省かなくてはいけない。②ができるのであれば、②の方法が良い。過去の上下巻で刊行したものはどのような計画だったか。

事務局) 以降の計画をずらしていけば、上下巻で刊行が可能か。過去の方法も含めて確認したい。

A 氏) 上下に分けるならば、入力順序の方針を出すなど、今後のやり方の整理が必要。章立てについては、上巻…1、4、5、下巻…2、3、6、7、9として、8のその他は上手くほかの章に組み込むのはどうか。その他はなるべく作るべきではない。また、5についても「記録」としてまとめるのはどうなのか。内容を見て、ほかの章に組み込んでみても良いかもしれない。

事務局) 上下巻刊行で史料の削除は行わないという方針で、細かな章立てなどの調整を行い、作業を進めていきたい。

※掲載史料については、岡崎市情報公開条例により非公開。

③ 口絵の候補

岡崎市情報公開条例により非公開。

④ 巻の名称

『本多忠勝家文書』とする。

それに伴い、家臣文書は『本多忠勝家家臣文書』とする。

(2) その後の刊行

① 本多家家臣文書

都筑家、梶家(家老)、服部家(忠勝譜代)

伊藤家(記録類)、和田家(分限帳)、緒方家(新参家臣)

その他、徳永・吉村・浅野家

中根家は御書など、梶家・都築家および他家の史料を補完できる史料を採録

他機関所蔵の史料も調査して採録

林家(客分): 名古屋市博物館

太地家: 明治大学博物館      大藤家: 立教大      長尾家: 岡崎市内

長坂血鎗九郎家の調査予定

② 町方文書の続編→『岡崎町方文書』に続編作成の旨を記載

③ 三河木綿関係

④ 岡崎城文書集

岡崎城に関する記録・文書類を集成した史料集

奥田敏春氏(岡崎市文化財保護審議会委員)の提案

⑤ その他

法蔵寺、長嶋家(大庄屋、未整理)、妙源寺、随念寺、富田家(旗本柴田家)

大部な史料以外の翻刻・公開の方法の検討も必要

A 氏) 現在の当主が健在の間に刊行していくべき。

時間が経っては史料の散逸、消失の恐れもある。

B 氏) 長坂血鎗九郎家は市民の間でも知名度は高い。調査を進めてほしい。

事務局) 所蔵先と連絡をとりながら、これまで通り、家臣文書を次に進めるという方針でやっていきたい。

C 氏) 岡崎城文書集はこれまで翻刻されているさまざまな記録から持ってくることになると思うが、まとめておけば研究も進みやすく良い。観光という視点から考えても岡崎城の研究が進むのはプラスに働く。出すのであれば、翻訳までとはいかなくとも、史料のわかりやすい説明をいれるべき。

また、時代の想定はいつまでか。近世後期から近代に戦国期の回顧が盛んにおこなわれることを踏まえれば、このころの岡崎城関係の史料を入れても良いと思う。近年では、昭和 20 年までは歴史とみなすようになってきた。この辺りまで視野にいれてみてはどうか。

事務局) まずは家臣文書を引き続き進め、岡崎城文書集については、今後話が進んでいく中で、改めて検討していきたい。

### (3) その他

#### ① 凸版印刷との連携

#### ② 翻刻史料のデータ入力

→①②ともに予算の関係上、来年度は実施しない